

理事長コラム

「こぶしの会 元理事長
故 桑山大祐氏を偲んで」

就労移行支援 すたあと

「職場体験しました」

就労継続B型 ここに

「ほんの小さな出来事だけど」

居宅支援

「かたつむり 5周年」

相談支援事業

「障害のある人に対する無理解からくる
不条理な出来事を繰り返さないために」

生活介護 こっから《紙すき班》

「ホットケーキを作りました!」

Topix

2014年度 決算公告

「金澤翔子書展と
現代国際絵画展」のご報告

編集後記



Column

こぶしの会元理事長 故桑山大祐氏を偲んで

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

2015年6月13日（土）は、午後から、こぶしの会後援会の総会が開催され、夕方からは、こっから家族会主催の「歓送迎懇親会」も行われ、20数人の家族会員、こっから職員、こぶしの会役員らが、「ここに」に集まり、懇親の会が開かれ、私も参加して楽しく語らっておりました。

そこへ桑山大祐氏のご逝去の知らせが飛び込んできました。私はびっくりして、西大寺の桑山氏のお宅に駆け付けました。桑山氏はやせ細られた顔でしたが眠ったような安らかなお姿でした。「苦しまれたのですか？」との問いに、「いや、昼前に、眠るように息を引き取りました」との奥さんのお答えにひと安心しました。「おじいちゃんは我慢強い人で、本当は苦しかったんだろうと思います」との娘さんの言葉が強く心に残り、近々にでも会いに来るつもりであった私には残念でしかたがありませんでした。しかし、通夜も告別式も、桑山先生の優しそうな笑顔の写真が参加者を励ましているようで、桑山先生のお人柄を慕った多くの人と一緒に、見送ることが出来ました。特に、こぶしの会や視力障害者の方々、盲学校の卒業生など多くの障害者の方やその関係者が参列し桑山先生にふさわしい告別式でした。最後の挨拶をされた息子さんの、「父を陰で支えてきた母と、人のために、特に苦しんでいる障害者のために生きてきた父を尊敬しています。私も父のような人生を送りたい」との言葉が全てを言い表しており、享年85歳の見事な人生でした。

私も桑山先生との関係の中から、二つ～三つの

エピソード明らかにし、桑山先生の人柄や想いをお伝えできればと思います。

その一つは、障害者との出会い、特に視力障害者との出会いでした。

私と桑山先生は齢が一回り離れ、障害児教育の大先輩であり、先生の全ての事が私の手本でありました。私が就職したのは県立登美学園でしたが、その当時、桑山先生は奈良市油阪町にあった、県立盲学校に勤めておられました。先生の紹介で、盲学校の若い教師や高等部の生徒とのつながりもできました。初めて「盲人野球」に誘ってもらったのが夏の日の夜の6時頃でした。運動場に行くボールの中に鈴が入った球を足でけり一塁へ全速で走るものでしたが、視力障害者の運動神経のすばらしさにびっくりしたのを覚えています。

また当時私は橿原に住んでいましたが同じ橿原市に住んでおられた盲学校高等部の先生と友達になり、「魚釣りを教えてくれ」と頼まれ、桜井の倉橋ため池に行きました。彼は強い弱視でしたが手元に双眼鏡をおいてそれを必死で見て、うきの当たりを見るのですが、その日はあいにく風のある日で健常者の私でも見えにくいうきに集中する彼の姿に本当に感動し視力障害者への見方を大きく変える出来事でした。桑山先生は私には一言も「勉強してこい」とは言わず、そのような機会を当たり前のように与えてくれただけでしたが、私の人生を大きく変えたことには間違いありません。

その二つは、こぶしの会の意味の問題です。

ご存知の事とは思いますが、「こぶしの会」の命名は桑山先生がされました。ここには二つの想いや願いが込められています。それは「辛夷の花」の「こぶし」と「握り拳」の「こぶし」です。辛夷の花は、桜より早く、一番初めに春を告げる花で「障害を持っている仲間たちの春を一番初めに呼び込もう」とする願いです。もうひとつは「人間の意志の力、頑張る力、団結の力」としての「こぶし」です。私が先生に聞いた際、二つの「願い」を強調されておられ、その後こぶしの会が法人化する際に作った「こぶしの会の理念」も先生の原案を中心にまとめ上げたものです。

もうひとつのエピソードは、「こぶしの会」が、かすが共同作業所とのぞみの家共同作業所を経営、運営していたころ、将来の姿をめぐり、内部での意見対立が生まれ、これらをうまく克服出来ず、藤井が腹を立て、事務局長を辞めたことがありました。私としては辞めたのだから何もませんでした。こぶしの会として行ってきた週1回の会議も長期にわたって開かれず、両作業所の運営にも支障をきたす状態だったようです。その時、桑山先生と藤森さんが私のところへわざわざ訪ねてこられました。怒られるのかと思ひ私の言い分もあると思っていたところ、先生は、「藤井君しんどかったら少し休みよ」と言われ、肩の力が抜けて、「何を苦しんでいたんだろう」と、ドタバタ騒ぎを思い直したことがありました。その後しばらくしてから、「こぶしの会」を何事もなかったかのような顔をして活動を再開したものでした。

最後のエピソードは、こっからでの出来事です。桑山先生は大変器用な方で、書はもちろんのこと額、表装、木工細工など多才な力を持っておられました。2002年4月1日のこっからの開所式を終え、4月20日に開所記念式典を行うことになり、3月からその準備にてんてこ舞いでした。そして記念式典の日に渡す記念品をどうするかという議論の中、こっからの建物の写真とそれを入れる卓

上写真立（15cm×20cm）を渡すことになりました。

これを桑山先生が手作りで作ることになりましたが、私は200個以上も作らなくてはならず「無理では！」といったのですが、桑山先生は「大丈夫！わしが責任を持ってやる」と言われ、分らないままにお願いしました。記念式典の2～3日前からこっからの職員はサンドペーパーかけやニス塗りなど総出で用意しました。私が感心したのは写真立を立てる足やそれを入れる紙箱まで用意されたことでした。その見事な作品はとても手作りとは思えない出来映えで、この桑山理事長の手作り額は、大事な家宝として私の手元に残してあります。

もうひとつは、こっからに入所してくる人は一番若い人で、18歳で入ってきますので、こっからでも成人式を行います。桑山先生は成人の人に印鑑を彫ってプレゼントされていました。これを見た成人式を既に過ぎた人も、この印鑑を欲しがり、桑山先生に頼みにいって作ってもらった人もありました。また紙芝居などの道具も自作自演で平和の集いなどで披露していただきました。このような例は数えたらきりが無いほどあり、先生のこっからに対する思いの強さでもありました。

桑山先生本当に長い間ありがとうございました。先生のお人柄と業績に感謝をしながら……。



仕事体験しました



ここからの仲間が、すたあとで2週間の仕事体験に取り組むことになりました。

封筒へのシール貼りでは、少し難しそうな大き目のシールを見て、「あれをやってみたい」と挑戦しました。

台紙からきれいにはがしたり、ゆがまず定位置に置くことが難しい点ですが、色々自分なりに試したり、工夫し、できるまで取り組んでいました。とある工夫を彼が始めた時、みんなが「そんなやり方があったか！」「なるほど〜」と驚き、拍手が沸きました。

「できるかどうかより、やってみたいという気持ちを大切にする」ことがどれだけ大切かを実感しました。

ともに働くことは、新たな人との出会い、新たな人間関係を作る機会、新たな発見を見出す可能性があることを改めて学びました。

(島 耕治)

ほんの小さな出来事だけど



お陰様で今年6月に、ここには開所4周年を迎えました。

ここに市もオープンから4年経ち、お越しくださる地域のお客様も増えてきました。そんなお客様から、「この辺はスーパーがないから、近くで買い物出来てありがたいわ。」とおっしゃっていただいたり、レジやドア係、調理を頑張る仲間を優しく見守っていただいたり、仲間手作りの店内装飾をほめていただいたり、仲間が一生懸命文面を考えている「ここに市新聞」を毎回見て、それに励まされているとおっしゃっていただいたり。また、お買い物された商品をお客様のご自宅まで一緒に配達させていただく時に、特定の仲間をご指名され、その道中の会話を楽しみにされていたり、配達中に出会う地域の方に仲間からあいさつができるようになり、その成長をほめていただいたり、配達が終わった仲間の手

を取り、「重かったでしょう？ ありがとう。」とお声をかけていただいたり。

国内外と、悲しいニュースがとても多い中、この狭い地域で起きているほんの小さな出来事が、心の奥底をポッと温かくさせてくれるのです。

これからもこの小さな幸せや平和を、仲間や地域の方と一緒に積み重ねていきたいです。

(新谷和博)

かたつむり 5周年



6月を持ちまして、日中一時支援・ショートステイ事業『かたつむり』が5周年を迎えました。

仲間同士、アフターファイブを和気あいあいと過ごしたり、思い思いにくつろいだりと、体も心もリラックスできる憩いの場として好評をいただき、仲間のくらしの中にも確かな存在として定着してきた『かたつむり』。

昨年度より、生活介護と日中一時支援の同日併給ができなくなり、特例措置も今月末で終了という事業運営においてはなかなか厳しい状況に置かれています。

ですが、「明日かたつむりやねん！」「今日の調理〇〇が食べたいなあ」「今度一緒に泊まろうね」と楽しみに

して下さる仲間の声が必要な励みとなり、『かたつむり』の原動力となっています。

職場でもなく家でもない第3の場。安心して、ゆったりと楽しい時間を過ごしていただける環境づくりを大切に、今後も多くの仲間が集っていただけるよう邁進してまいります。

障害のある人に対する無理解からくる 不条理な出来事を繰り返さないために

～佐賀・安永健太さん死亡事件は、どこでも起こりうる事件～

バスでこっからに通っている〇さんは、何度も同じことを確認する強迫症状があり、気になるポイントを足で何回も踏んだりしながら時間をかけてゆっくり到着します。ある朝、いつものようにマンホールの上で足踏みしていたところ、巡回中の警察官に呼び止められ、驚いて走って逃げたため、警察官は追いかけて腕を捕まえました。警官と一緒に歩いているところを職員がを見つけ、事情を説明して事なきを得ましたが、警察官は彼に障害があるということがわからなかったようです。各地で障害に対する無理解から警察などによって障害のある人への不当な扱い・不審者扱いが報告されています。奈良でも、警察に不当連行され誓約書をかかされたり、警察署内で家族が土下座を強要された事件を奈良県自閉症協会からお聞きしています。

2007年佐賀で起きた安永健太さん死亡事件をご存知でしょうか。作業所からの帰り道、5人の警察官に取り押さえられ、その直後に亡くなった事件です。家族は真相究明と事件を二度と繰り返さないために、警察を被告とする裁判を闘っています。

きょうされんをはじめ育成会や発達障害ネットワーク、知的障害者福祉協会など全国の障害者団体が「権利条約批准国にふさわしい判決を！」と支援の輪を広げています。紙面の都合で詳しくは触れられませんが、ぜひ「安永健太さん死亡事件を考える会」のホームページをご覧ください。

障害者権利条約は、障害のある人が地域で生活することを権利としました。その実現のためには、「身体的自由および安全」の権利や「非人道的な」取扱い、「あらゆる形態の搾取、暴力および虐待」の禁止が明記され、それからの保護がうたわれています。安心・安全に地域で暮らしていくために必要なしくみをどうつくるのか、私たちの日々の社会への働きかけが問われています。

(小針康子)



紙すき班で ホットケーキ作りをしました♪

紙すき班では、月に1回お楽しみ企画をしようということで、4月にお菓子作りをしました。何を作りたいかを紙すき班の仲間で話し合い多数決をとった結果……ホットケーキを作ることに決めました。

午前中に近くのスーパーに材料の買出し。張り切ってカゴを持つ仲間もいれば、関係ないものをカゴに入れようとして笑っている仲間もいたり。レジの支払いも袋詰めも仲間がします。

午後から持参のエプロンを着用して調理開始!! 卵を割る係り、生地を混ぜる係り、果物を切る係り、生地を焼く係り、後片付けをする係りなど

分担して行いました。焼きあがると良い匂い♪ ホットケーキをお皿に入れて、トッピングはお好みで♪ トッピングの一番人気は、生クリームでした。これでもか!! というくらい乗せて、口の周りにつけながら頬張る仲間もいて、笑いっぱいになることができました。もちろん、みんなおかわりをして満腹満腹♪ 山盛り焼きあがったホットケーキは、他の班の仲間にもおすそ分けをしてあっという間に無くなりました。今度は何を作るか考えるのが楽しみです。

(大西 郁栄)

Topix

4月



入所式

今年度は仲間1名と職員2名が新たに加わりました。



給料の取り組み

バングループが給料を持って外食へ。月一回のお楽しみです。



プール大会

東市小学校のプールを開放していただきおもしろい泳ぎできました。

5月



つながり祭

今年もこぶしの会は、家族会・マッカ・コミに・すたあとで参加しました。

障害者施設の授産品販売促進を目的にプレミアム商品券を県が発行しました。



県庁販売

プレミアム商品券を使つての販売会は大好評。あっという間にチケットも完売しました。

6月



グリーンコミュニティ

毎月の清掃活動で古市公園の皇帝グリアや花壇整備を地域の方々と一緒に行いました。



活動班

取り組みで本格ハンバーグをつくりました。



寄贈

日本風景写真協会様より作品展に展示された作品を寄贈していただきました。

7月

事業活動計算書

自:2014年4月1日 至:2015年3月31日

単位:千円

勘定科目		決算額	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	25,556
		自立支援給付費収益	169,555
		その他収益	28,502
	サービス活動収益計(1)		223,613
	費用	人件費支出	154,778
		事務費支出	22,444
		事業費支出	19,942
		就労支援事業費用	26,236
		減価償却費	8,501
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-6,193
サービス活動費用計(2)		225,708	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-2,095	
活動外増減の部	サービス事業外収益計(4)	3,992	
	サービス事業外費用計(5)	340	
	事業活動外支出差額(6)=(4)-(5)	3,652	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		1,557	
特別増減	特別収益計(8)	16,564	
	特別費用計(9)	16,564	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	0	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		1,557	
繰越活動の部	前期繰越活動増減差額(12)	155,475	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	157,032	
	次期繰越活動増減差額(17)	157,032	

貸借対照表 2015年3月31日現在

単位:千円

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	81,485	流動負債	10,036
現金預金	46,939	事業未払金	300
未収金	32,423	未払費用	2,824
貯蔵品・原材料	914	他流動負債	6,912
他流動資産	1,209	固定負債	18,700
固定資産	257,679	設備資金借入金	18,000
基本財産	228,747	長期運営資金借入金	0
その他固定資産	28,932	入所者借入金	700
建物	3,240	負債の部合計	28,736
構築物	1,165	【純資産の部】	
建物附属設備	9,993	基本金	50,840
機械及び装置	125	第1号基本金	50,840
車輛運搬具	3,917	国補等特別積立金	98,056
器具及び備品	5,276	その他の積立金	4,500
無形固定資産	716	次期繰越活動収支差額	157,032
工賃変動積立預金	500	次期繰越活動収支差額 (うち当期活動収支差額)	157,032 1,557
設備等整備積立預金	1,000	純資産の部合計	310,428
その他積立預金	3,000	負債及び純資産の部合計	339,164
資産の部合計	339,164		

『金澤翔子書展と現代国際絵画展』のご報告



7月11日(土)から13日(月)までの3日間、東大寺大仏殿西回廊を会場に開催しました
チャリティ絵画展『金澤翔子書展と現代国際絵画展』は、来場者940名、関係スタッフや
ボランティアを合わせて1,000名を超える参加者で盛況のうちに終えることができました。
心配された天候も開催期間中は奇跡的に快晴が続きました。

また今回のチャリティ企画の趣旨(「仲間の地域生活を支える拠点づくり」)にご理解
をいただき、内覧会でのご挨拶をはじめ、開催までの準備から会場や設備の使用に快く
ご協力くださった東大寺様には改めて感謝申し上げます。素晴らしい景観の中、世界遺
産の東大寺での開催は、私たちの心に残る取り組みとなりました。ありがとうございました。

最終日の金澤翔子さんとお母様の泰子さんのトークショーも100名の定員はあっという
間に埋まるほどの反響があり、世間での知名度の高さを感じました。今年30歳になられ
た翔子さんは講演の冒頭に「30歳になったので一人暮らしをはじめます!!」と力強く宣言
され、泰子さんのお話は参加者の皆さんに感動と希望を与えるお話でした。

その後、翔子さんのサイン会や仲間との交流会も盛り上がり、短い時間でしたが、みん
なにとっても、思い出に残るイベントとなりました。お母様の泰子さんとこぶしの会の紹介
パネルを一緒に見ながらお話をさせていただいた時に、「私もう少し若ければ、こんな
活動を本当はしたいです」と仰っていたのが印象的でした。

今回の売上やカンパ、グッズ販売等による収益(40万円)は生活支援拠点づくり資金と
して大切に活用いたします。また、ほるぷさんを通してユネスコ基金へ5万円の寄付も行
いました。招待券配布や会期中の要員等、ご協力いただいた関係者、ボランティアの皆
様、そして猛暑の中ご来場くださった皆様、ありがとうございました。これからもご支援ご
協力をよろしくお願いいたします。(古木一夫)



編集後記

久々に「目からウロコ」の出来事があった。こっからの男子トイレ
のスリッパの話なんですけど。

5足ぐらいあるスリッパが、みんなが使うたびに、あっちこっちバラ
バラに散らばるんです(たまに揃ってても右左だったり)。で、それを
トイレに行くたびに「しゃーないなあ」とか言いながら揃えて並べ直
したりしてたんです。ずっとここ何年も。ところがある日、そのスリッパ
に番号が書かれてあったんです。左右バツと目につく場所に1番から
5番まで。で、トイレに行くたびに何気なくそれを眺めていたんで
すが、何日か経ってハッと気がついたんです。スリッパが散らばって

ないことに。あれだけ見事にバラバラだったスリッパがいつ行って
も、きちんと番号ごとに揃えて置かれてあるんです。ショックでした。
私が行っていた行為はまさに対処療法であり、「仕方がない」とい
う思考停止だったんです。それを同じように困っていた誰かが、そ
もそもなぜ散らばるのかと原因を考え、仮説を立て、工夫を試みて
くれた訳です。「お見事!!」というほかありません。あらゆる「問題」
に対して、「仕方がない」と他者のせいにして目をつぶったりあきら
めて放置していることが他にもあるのではないかな。そんな気づきを
与えてもらったという話。(古木一夫)

こちらも
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>
Facebookはじめました。

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。